|  |
| --- |
| **平成２６年度九州文化学園歯科衛生士学院****学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会報告**　　　　１．学校関係者評価委員及び教育課程編成委員 |
| 委員名 | 　　　　所属先 | 　　役職名 | 　　　備　　　考 |
| 兵働　敏也（兼） | 佐世保市歯科医師会理事 | 医療情報委員長 | 兵働歯科医院　院長 |
| 永田　昌也（兼） | 佐世保市歯科医師会 | 医療情報委員 | ながた歯科クリニック　院長 |
| 山口　方子（兼） | 長崎県歯科衛生士会 | 副会長 | 医療法人真友会 藤井医院歯科衛生士 |
| 柴﨑　政忠 |  | 藤原町２組公民館長 |  |
| 中村　太一（兼） | 県立佐世保東翔高等学校 | 教頭 |  |
| 川原 ゆかり（兼） | 長崎短期大学 | 保育学科長 |  |
| 川﨑　辰秋 | 長崎国際大学 | 会計課長 |  |
| 　注．委員名の氏名末尾に（兼）は、両委員会を兼務、（兼）なしは学校関係者評価委員のみ。２．学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会の開催状況（１）日　時　平成２７年２月２６日（木）１８：３０～２０：３０　　　　　　　　　　〔評価委員会終了後、教育課程編成委員会を開催しました〕　　　　　　（２）会　場　　九州文化学園歯科衛生士学院　　　　　　　　　　　佐世保市藤原町７－３２（３）内　容　　開催日１０日前に、平成２６年度自己評価・学校説明資料・事業報告等をお渡しし、委員会で、ご意見・課題等を出していただいた。その後、評価表を提出していただきまとめたものが、別紙の報告書である。　３．学校関係者評価報告及び教育課程編成委員会報告　　　別紙のとおりである。ただし、教育課程編成委員会報告は、（１）の（今後の課題・提言等）の①②　　（２）の（意見）の③④⑤（今後の課題・提言等）の①③④⑤⑥である。 |
| **（１）教育理念・運営方針・学校教育目標等について**（意見等）　① 運営方針の中で、現場で役立つ歯科衛生士として必要な知識と技術の習得とあるので、日進月歩の歯科医療技術に対応するため、職員の更なるスキルアップの必要性や学生の社会人基礎力を育てるための基礎学力、協働する力、基本的な生活習慣の確立を目指したキャリア教育の一層の充実が求められる。　② 運営方針の中で、地域住民への歯科医療向上への寄与とあるので、歯科医師会との共同の公衆衛生活動（現在実施しているデンタルフェスティバルなど）は歯科衛　生士をＰＲする意味でも効果的だと考える。歯科に関わる様々な行事に極力参加できるように情報を集めて活動の幅を広めると良い。　 （今後の課題・提言等）　① シラバスの記載内容が簡単なので、もう少し内容の表現や説明を加える。記載形式を統一したほうがよい。特に、評価の方法では、出席点、試験、レポート、実習等がどのような比率で評価されているのか。　② 教育課程の編成において、選択必須分野に基礎教育的な内容や社会人基礎教育的な内容が必要ではないか。全般的に社会性を含む社会人（職業人）としての基礎力が脆弱になっているように思う。**（２）教育活動・学修成果〔教育課程、学習指導、生徒指導等〕　委員評価３．７**（意見等）　① 事業計画の教育活動１５項目については、積極的に取り組まれている。特に、国家試験対策及び教育課程の充実、実践的な指導等、医療事務管理士技能認定試験へのチャレンジ、接遇マナー、講演会等多様な活動がなされ評価できる。学生の進路保障の幅を広げることに繋がっている。　② 国家試験全員合格を目指して、模試回数や不得意分野の分析、補習等の個人指導などきめ細かな指導がなされており、３年制になってから６年のうち５年間が１００％合格の結果に表れている。　③ 超高齢社会に対応すべく口腔ケア、周術期口腔管理等に関しては、すでにカリキュラムに取り入れられ、さらに充実することを望みたい。可能であれば、ヘルパーや介護士の資格が取れればさらによい。　④ 老人ホームやリハビリテーション病院・障害者施設・総合病院などの実習も行われており、一般歯科では体験できない内容を学習する機会があって良いのではないか。卒業後の職場選択にも役に立つ。　⑤ 接遇マナー教育（検定・講演会を含む）やコミュニケーション能力養成や情報処理・医療事務能力検定指導受験なども行われており、現場に出たとき、そして人としても役に立つ教育がなされている。　 そのような意味でも、先輩歯科衛生士の講演会は良い試みである。　⑥ 地域での挨拶は、町内の資源物等の回収の時はよいが普段の挨拶はあまりないので、指導が必要ではないか。月１回の学校周辺の清掃活動は非常にありがたい。車通学の学生で一旦停止をしない学生が見受けられる。以前、事故も起こっており注意をお願いしたい。（今後の課題・提言等）　① 臨床実習において、「他職種連携」や「ＣＡＤＣＡＭ」「ニッケルチタン」など医療現場でも新しいワードが登場してきていることを考えると、若手のドクターに担当してもらう方向に持っていくことも必要である。② 事業計画の策定が学年が混在していて外部には分かりにくい。学年毎に分類するか内容別に整理すると、教育の目的や柱が明確になるのではないか。また、１～３年次に向けたプログラムにすると教育活動のステップが分かりやすくなる。③ コミュニケーション能力向上の取組はなされているが、ワークショップ等などの実践的なトレーニングも取り入れたらどうか。④ マナー教育の中で、より効果をあげるためには、まず自分自身を知るこが必要である。そのために心理テストや講座の中や講演会後に学生の意識付けを図るためグループディスカッション等を取り入れるなど、学生一人一人に考えさせてみてはどうか。⑤ 職員の自己評価はなされているが、学生の学校評価や授業評価も必要ではないか。⑥ 口腔ケアは現場で回数を重ねて得ることが多い。実習もそうですが、病棟や他職種の方々の動きも分かり役に立つのではないか。状況判断ができるなど考えて行動ができる歯科衛生士の育成を、これからもお願いしたい。**（３）学生支援活動〔進路・教育相談等〕委員評価４．０**（意見等）① 市歯科医師会との情報交換や三者面談を通して家庭との連携を図りながら、就職支援が行われていることが、学生の就職意識を高め就職率１００％を維持されているものであり評価できる② 市内や他県の歯科医院スタッフ講演は良いアイディアである。学生の興味も大きいと思われる。早期に行えば、モチベーションが早くから高まる可能性がある。③ 個々の学生の就職希望に対応した、きめ細かな指導が行われている。また、学生全員の就職内定を目指した、職員全体の意思統一の協力体制が構築されている。 　④ 年間出席率が９９％前後の高い出席率、退学者や休学者が少ないのは、教員のたゆまぬ学生支援の賜であり、日頃の学生と教員との信頼関係が築けているからであろう。特に、全学年の保護者面談は有効である。本人・保護者・学校の三者の協力体制は必須である。　  （今後の課題・提言等）① 市歯科医師会の九文との窓口である医療情報委員会を通じて、市歯科医師会との情報交換を密に行っていくことが、今後益々重要になってくると思われる。　② １年の保護者から、入学後早い時期に生活面や学習に対する意欲等を指導し保護者・教員に対して意思表示をする場面設定ができないかとの声があった。　③ 県内、市内だけでなく全国的な就職支援ができると学生は心強いのではないか。　④ 進路や人間関係で悩みを抱える学生へのカウンセリング機能の充実が望まれる。　⑤ 卒業生で現役の歯科衛生士から、学生にアドバイスや相談ができる機会を早い段階や就職活動を始める時期に年に数回設けたらどうか。学生のモチベーションや意欲が増すのではないか。**（４）学生募集活動　　委員評価３．３**（意見等）　① ガイダンスの種類・学校訪問・職業体験受入・オープンキャンパス・デンタルケアセミナーの開催等と意欲的な取組がなされており、その結果、ここ数年は定員を満たしており努力の跡が伺える。　② 教育活動と学生募集活動は両輪であるが、時間的な制約がある中でよく活動がなされているように思う。（今後の課題・提言等）　① 現代は情報の時代である。テレビサセボ以外のテレビ局の活用はできないのか。ラジオ・新聞・ミニコミ誌等に明るい話題を提供し、好感を持たれることは必要である。特に、ＨＰの充実は欠かせない。他と違う分かりやすくセンスのある内容が必要である。　② オープンキャンパスの参加数と入学者数は相関関係があり、オープンキャンパスの広報を強化することは大切である。　③ 高校３年生に限らず、１年生のうちから歯科衛生士の仕事や本校のことを十分に知ってもらう働きかけをすることも考える必要がある。　④ 今後、県北地区の児童生徒数の減少は顕著であり、更に幅広い地域からの学生募集の働きかけが必要である。また、これまで以上の学校見学の受入やオープンキャンパスの参加数増加に向けての取組が必要である。　⑤ 学生を活用した広報活動を取り入れたらどうだろうか。**（５）その他〔社会貢献・地域貢献活動・職員研修・教育環境等〕　委員評価３．８　※評価なし２名**（意見等）　① 市歯科医師会主催のデンタルフェスティバルの補助員活動や幼稚園・小・中学校・特別支援学校でのブラッシング指導など歯科衛生士としてのＰＲを含め、特性を生かした社会・地域への貢献はできているのではないか。　② 月１回の地域清掃活動は地元町内会としてもありがたい。　③ 教員研修においても積極的に外部研修に参加し、レベルアップが図られているのは評価できる。　④ 熱心な教員と施設設備も新しく恵まれた環境で学生は学生生活を送っているのではないか。 （今後の課題・提言等）　① 市歯科医師会との共催で公衆衛生活動などを通して、地域に根ざした歯科衛生士活動は今後一層重要性を増していく。市民に認められてこそ歯科衛生士としての地位は確立されます。　② ボランティア活動（地域のお祭り・イベント参加）等について、学生自身（学生自治会）に考えさせてもよいのではないか。このことによって、本校への地域からの理解と連携が深まるのではないか。　**③ 財務公表・評価については、Ｈ２６年度決算をもとに５月２１日実施予定の委員会で実施する。** |